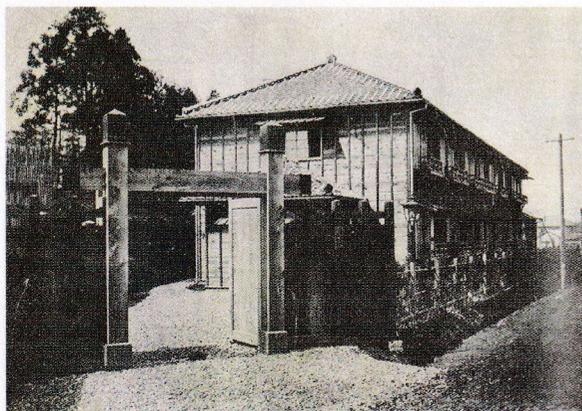


# 東京小石川に建築された興讓館寮



明治 42 (1909) 年 4 月 3 日に上杉家から第 14 代茂憲と有為会総裁に推戴された 15 代憲章の臨席があり、開館式が挙行されました。

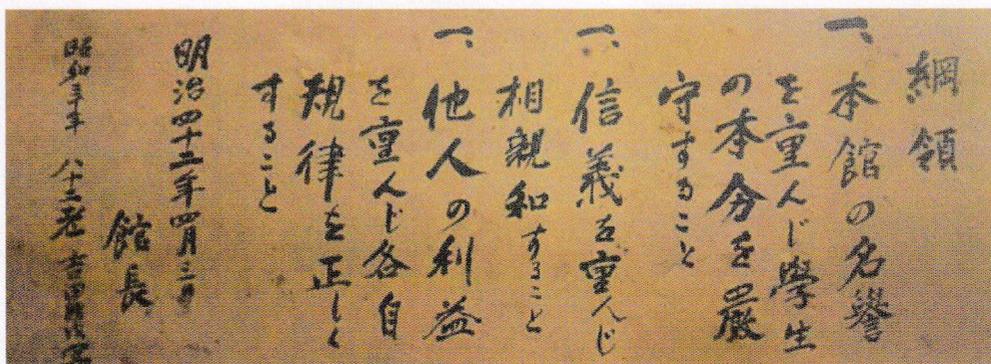
上杉家から用地確保に多大な支援を受け、また建設費は興讓館財団からの援助、さらには会員の寄附で実現された東京興讓館寮。

敷地 600 坪、和洋折衷 2 階建、20 室。第 1 回の入寮生は 37 名。



初代東京興讓館館長 吉田熊次 (1874-1964)  
南陽市中川公民館所蔵

南陽出身。山形中学出身。東京帝国大学文科大学卒。国定小学修身教科書起草委員。文学博士。東京帝国大学教授。



吉田熊次が揮毫した寮の綱領

東京興讓館寮所蔵

東京興讓館寮は戦災焼失したが、昭和 30(1955)年、82 歳時点で寮の開館当時の綱領を揮毫、その内容から開館当初の気風がうかがわれます。

## 寮出身者の回顧

「そのころ、米沢出身者で米沢有為会という青年会が組織され、東京に本部を置いた。初代総裁は旧藩主の上杉憲章伯、会長は内務大臣の平田東助氏、総務部長は鉄道院理事の小林源蔵氏という構成であった。私が大学へはいるころには会の活動も強化され、奨学金貸費制度を設け、また東京に学ぶ郷里出身者のための自治寮米沢興讓館を、明治四十三年、小石川表町の伝通院裏に新築した。館長には教育学の大家吉田熊次博士がなられ、私も幹事に選ばれて興讓館に住むことになった。私はこの自治寮の世話をし、有為会会誌の編集にも関係しながら、ここで学生生活を最後まで続けたのである。」



北沢敬二郎 (1889-1970)  
大丸編『北沢敬二郎氏を偲ぶ』より

米沢出身。実業家。東京帝国大学法科大学卒業後、住友総本店に入社。住友本社常務理事を歴任し、戦後、大丸の 3 代目社長となる。